

D a n g T h a i S o n

ダン・タイ・ソン

2夜連続公演

「音」がすべてを語る |

ソロ 6月9日(火) 珠玉のリサイタル ~色彩と詩情~

モンポウ:「前奏曲」より第1番、第7番
「風景」より湖
「歌と踊り」より第7番、第3番、第8番
ラヴェル:「鏡」
ショパン:ノクターン第18番 ホ長調 Op.62-2
ノクターン第1番 変ロ短調 Op.9-1
ポロネーズ第1番 豊ハ短調 Op.26-1
即興曲第3番 変ト長調 Op.51
3つのマズルカ Op.50
バラード第1番 ト短調 Op.23

デュオ 6月10日(水) 円熟の最高峰デュオ ~響きの対話~

共演:エヴァ・ボブウォツカ

モーツアルト:4手のピアノ・ソナタニ長調 K.381 (連弾)
シューベルト:ロンドイ長調 D951 Op.107 (連弾)
ロンドニ長調 D608 Op.138 (連弾)
アレグロイ短調「人生の嵐」D947 Op.144 (連弾)
ショパン:ロンドハ長調 Op.73 (2台ピアノ)
ラヴェル:マ・メール・ロワ (連弾)
ブランク:4手のためのピアノ・ソナタ Fp.8 (2台ピアノ版)
2台のピアノのためのエレジー (2台ピアノ)
「仮面舞踏会」の終曲によるカプリッショ (2台ピアノ)

2026年

ソロ 6月9日(火) 19:00 開演(18:30開場)

デュオ 6月10日(水) 19:00 開演(18:30開場)

浜離宮朝日ホール

全席指定:各日13,000円(税込) 一般発売 2026年1月30日(金)

ご予約/お問い合わせ:チケットスペース 03-3234-9999(10:00~15:00 ※休業日除く)

チケットスペース
オンライン

[プレイガイド]
朝日ホール・チケットセンター
03-3267-9990(日・祝除く10:00~18:00)
チケットぴあ t.pia.jp
イープラス eplus.jp
ローソンチケット l-tike.com



teket
(電子チケット)



※都合により曲目等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。
※就学前のお子様のご入場はご遠慮いただいております。託児サービスをご利用ください。(要予約)
【託児のお申込み】イベント託児・マザーズ:0120-788-222
※チケット購入後のキャンセル及び変更はできません。

主催:朝日新聞社/浜離宮朝日ホール/ヒラサ・オフィス

共演:エヴァ・ボブウォツカ
(6/10のみ出演)

©Tang Ling

©Bartek Barczyk

1980年、第10回ショパン国際ピアノコンクールにおいて、アジア出身者として初の栄誉に輝いたダン・タイ・ソン。その類まれなる美しい音色と、繊細かつ卓越したテクニックは世界に鮮烈な印象を残し、一躍その名を知らしめました。以来約45年にわたり、ショパンの心と魂に深く寄り添う理想的な解釈者として、常に世界の第一線で活躍を続けています。

演奏家としてのみならず、教育者としての存在感もまた比類ありません。2021年ブルース・リウ、2025年エリック・ルート、ショパン国際ピアノコンクールで2大会連続の優勝者を門下から輩出。数多くの若き才能を世界最高峰の舞台へと導き、現代ピアノ界に大きな足跡を刻み続けています。

2026年のリサイタルツアーでは、待望のソロ・リサイタルに加え、ポーランドを代表する名ピアニスト、エヴァ・ポブウォツカを迎えてのデュオ・プログラムも実現します。

「音」がすべてを語る——その真価を、ステージ上で体感する特別な二夜となることでしょう。

ダン・タイ・ソン(ピアノ) Dang Thai Son, Piano

ベトナムのハノイに生まれ、モスクワ音楽院に学ぶ。

1980年、ショパン国際ピアノコンクールで数々の特別賞とともに優勝し、アジア出身の初の快挙として大きな注目を集めました。以降、リンカーン・センター(ニューヨーク)、サル・プレイヤー(パリ)、ムジークフェライン(ウィーン)、など世界40ヵ国以上の稽古舞台で活躍を続ける。

これまで、レニングラード・フィル、モントリオール響、BBCフィル、プラハ響、パリ国立管弦楽団など世界のトップ・オーケストラと、また、サー・ネヴィル・マリナー、マリス・ヤンソンス、パーヴォ・ヤルヴィ、アシュケナージをはじめとする著名指揮者と共に演奏を重ねています。アイザック・スターには、「眞の音楽家」と称えられ、その美しい音色は世界中の聴衆を魅了してやまない。

2010年、ポーランドでフランス・ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラと共に演奏。また、ショパン生誕200年にあたり、ワルシャワでのガラ・コンサートに参加する他、世界各国で公演を行なった。2012/13シーズンには、ベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲による世界一周ツアーも催行。

CDはドイツ・グラモフォン、ソニー、ピクターエンタテインメントなどから数々の名盤をリリース。2017年には、『初のシーベルト・アルバム』をリリース、また、アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団と録音したバダレフスキ作品集も併せて高い評価を得た。2018年9月、ポーランドの文化および、国家遺産に対する貢献者に贈られる最高位の顕彰である、『文化功労勲章』金章を受章。

現在、米国のオバーリン音楽院、及び、ニューイングランド音楽院にて教鞭を執り、ワルシャワでのショパン国際ピアノコンクールをはじめ、多くの世界的コンクールで優勝者を輩出、また、審査員を務めるなど、次代のピアニストの育成にも注力している。カナダ在住。

オフィシャルサイト www.dangthaison.net

©Tuan Anh Le

エヴァ・ポブウォツカ(ピアノ) Ewa Poblocka, Piano *6月10日のみ出演

第10回ショパン国際ピアノコンクールで第5位入賞、同時にマズルカ賞も受賞。1977年ヴィオッティ国際コンクール優勝、1979年ボルドー国際コンクール優勝。現在のグダニスク音楽院にて、ズビギニエフ・ジェヴィエツキ、イエジー・スリコフスキ各氏に師事し1981年首席で卒業。ハンブルクの大学院でコンラート・ハンゼンに師事の後、ルドルフ・ケーレル、タチアナ・ニコラエワ、マルタ・アルゲリッチ等に師事。これまでヨーロッパ、北米、中国、南アフリカ、インドネシア、シンガポール、韓国、日本、オーストラリアなど世界各地の主要コンサートホールにおいて公演を行うほか、各国の著名オーケストラにソリストとして招かれている。パロックから現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、ドイツ・グラモフォン、ピクターなど各社からリリースされた50タイトルを超えるCDの多くが賞を受賞し批評家の高い評価を得ている。

優れた教育者としても知られており、現在はポーランド国立ビドゴシチ音楽アカデミーで指導にあたる。日本でも過去に東京藝術大学、名古屋芸術大学にて客員教授を務めた。

世界各地でマスタークラスを実施するほか、ショパン国際ピアノコンクール、ルーピンシュタイン国際ピアノコンクール、浜松国際ピアノコンクールなど、多くの主要国際ピアノコンクールの審査委員も務めている。

2021年8月には初の著書『Forte-piano』を刊行。ポーランド国営ラジオ第2放送では、バッハに関する番組のパーソナリティも務めている。

©Bartek Barczyk

浜離宮朝日ホール

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階

「築地市場駅」都営大江戸線(A2出口)すぐ

*A2出口はエスカレーター、A3出口はエレベーターがございます。

「築地駅」東京メトロ日比谷線(1、2番出口)より徒歩約8分

「東銀座駅」東京メトロ日比谷線／都営浅草線(6番出口)より徒歩約8分

「汐留駅」都営大江戸線(新橋駅方面改札口)／新交通ゆりかもめ(改札口)より徒歩約10分

「新橋駅」JR(汐留口)／東京メトロ銀座線(1、2番出口)／都営浅草線(改札口)より徒歩約15分

